

地域で暮らしています ～みんなの力が自立を支える～

12月3日～9日は障害者週間

問▶ 障害福祉課 (☎71)2259)



障害者週間とは

国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深める期間です。

また、障害者が社会、経済、文化、その他のあらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的としています。

障害者の自立について

生まれ育ったまち、あるいは住みなれた地域で「自分らしく暮らすこと」は、誰もが望むことです。

安城市にも、障害のある人がたくさん暮らしています。家族との同居や、一人暮らし、施設で生活している等、その暮らしの形はさまざまですが、本人や介助者である家族の高齢化を見据え、将来どのように自立した生活を送るかが課題となっています。

この特集では、地域で生活している障害のある人たち本人や家族、支援に携わっている人たちの話を聞き、日常をとりあげました。

グループホームで生活している 弘中さんの場合



弘中さんは
軽度の知的障
害があり、養
護学校卒業後、
近隣市の図書

館で働いています。

グループホームでの生活は楽しく、月に一度、ほかの利用者と一緒に女子会と称してDVD鑑賞をしていることです。

■お母さんの話

彼女が仕事を始めた頃、自宅から通勤していましたが、感情のコントロールがうまくできず、家庭内がギクシャクしていました。このままではお互いによくないと思い、グループホームの体験利用を行いました。それが本人に合ったようでしたので利用を始めました。

グループホームでは、世話人さんが夜間もいてくれるので安心していきます。また、共同生活で以前よりも人との関係をうまく築くことができようになったと思います。

もし、グループホームを考えている人がいれば、まず、体験してみることがおすすめです。その上で、本人が利用を希望するのであれば、後押しをしてあげることが本人の尊厳を保つことにつながると思います。

■世話人さんの話



弘中さんは
他の利用者と
生活の時間等
が違っているので、
一緒にいるこ

とは少ないですが、つかず離れずの程よい関係を保っています。食後の食器洗い、洗濯物干し、部屋の掃除機かけは自身で行っています。

職場まで決まった電車に乗らないと遅刻等をしてしまう心配があったので、彼女と話し合って起床・就寝・食事の時間を細かく決めました。そうしたら、自分で行動できるようになりました。

また、障害者の自立には地域の協力が欠かせません。防災訓練や一斉清掃等地域の行事にできるだけ参加をするようにして、つながりを作るようにしています。

■職場の人の話



弘中さんに
は、他市との
本の貸し借り
をする相互貸
借、児童関係

の絵本の準備、臨時職員の賃金の集計等をしてもらっています。

パソコンの操作やポスター作りが得意ですね。逆に、倉庫で本を50音順に並べるのが苦手かと思っています。集中力があって、好きな仕事は一

生懸命取り組んでくれます。ただ、苦手な仕事は飽きてしまう感じがしますね。そして、苦手な仕事を催促すると、やらなければいけない仕事と理解できているけど、頭の中で整理がつかずに、混乱してしまうことがあります。そうしたときは、障害の特性上起こりうることで折り合いをつけるようにしていますが、普段はなるべく特別扱いをしないように心がけています。

◆弘中さんの1日

他の利用者よりも出勤が早い弘中さんは、みんなから「いつてらっしやい」「お仕事頑張つて」と、声をかけられます。このことが、弘中さんの励みになっているそうです。

職場である図書館では、他市の図書館から貸し出し希望のあった本を、一つ一つリストと見比べながら丁寧にチェックをします。他にも、養護学校で習得したパソコンのデータ入



力等の作業や、自分の得意な絵を活用してポスターを描く等、職場の人達から頼りにされています。



午後5時過ぎに仕事が終わわり、6時30分頃にグループホームへ帰宅します。他の利用者はすでに食事を済ませており、一人での夕食。食後の自由時間は、好きなゲーム等をして過ごし、10時30分頃に就寝します。

◆グループホームとは

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの一つです。障害のある人が共同生活を送る住居において、世話人による入浴や食事の介助、調理や掃除等の家事等、日常生活上の支援を受けながら生活する場所です。

利用者は日中、仕事をしたり、障害福祉サービス事業所へ通ったりしています。

安城市には、7つの施設があり、71人が生活しています。

一人暮らしをしている
木村さんの場合



木村さんは、
障害の特性上、
コミュニケーションを
とるのが
難しいといった
ことがあります。

市内の喫茶店で働いており、「仕事
が楽しい」と語ってくれました。

■お母さんの話

以前は、グループホームを利用し
ていましたが、共同生活が合わず、
家族で悩んだ末たどり着いたのが
「二人暮らし」という選択でした。

幼い頃から「一人になっても日常
生活は困らないように」と、いろい
ろ教えてきました。教えると割とす
んなりやる子でした。しかし、時
季にあった服装ができないことや、
身だしなみがおそろかになつてい
いか等といった心配があつたので、
平日の朝ヘルパーさんに来てもら
っています。また、夕食については宅
配サービスを利用しています。

最初のうちは週2回、様子を見に
行っていました。現在は週1回に
なりました。

障害福祉サービス等をうまく活用
して、親ができないことをヘルパー
さんをお願いしていけば、一人暮ら
しのできるのではないでしょう

■相談支援員さんの話

はじめは一人暮らしができるか不
安でした。でも、本人の意志が強か
つたので、ヘルパー等のサービス利
用の支援計画を考え、スタートしま
した。

今後、課題があるとすればご両親
の高齢化により見守りができなくな
った後だと思っています。その時には、
グループホームの一環として定期的
に訪問し、彼女の一人暮らしを応援
したいと思っています。

周りの人が彼女のことを理解して、
差別なく接してもらえれば一人でも
生活していくことができるとしま
す。

■職場の人の話

テーブル拭きや配膳等、やること
が決まっていますので、順番どおり
であればしっかりとできます。お昼
の忙しいときは、混乱してしまうこ
ともありますが、周りのスタッフが



フォローを
して乗り切
っています。
一人では
難しいこと
も周りのフ
ォローがあ
ればやって
いけると思
います。

◆木村さんの1日

木村さんは、毎朝午前6時に起床
します。ヘルパーさんに来てもらい、
風呂やトイレの掃除等をやってもら
います。洗濯物は自分で干します。
午前9時頃、仕事に向かいます。
ヘルパーさんと共に家を出ますが戸
締りは自分で行います。



職場に到着
したら、まず
はテーブル拭
きや、紙ナプ
キンを用意す
る等の開店準
備。スピーデ
ィかつ丁寧に
一つ一つ行い
ます。

お昼の時間になると、たくさんのお客
さんが入ってきます。テキパキ
と配膳しながらも箸の向きを揃え
たり、お椀についている汁を拭き取る
等、気遣いを忘れません。お客さん
が入ってく
ると、お客
さんの方を
向き「いら
っしゃいま
せ」と元氣
にあいさつ
をします。



帰宅後、
洗濯物を取り
込んだり

しながら、食事の配達を待ちます。
配達のない日は自分で食事を用意し
ます。

食後の
一人の時
間は、テ
レビを見
たり裁縫
をしたり
して過ご
していま
す。



▲木村さんが作ったバッグ

■終わりに

弘中さんと木村さんは、苦手なこ
とやできないことを助けてもらいな
がら生活しています。

自分ひとりの力で生きることが自
立ということではありません。助け
てもらえる人や場所を増やすことが、
障害のある人にとっての自立につな
がるのではないのでしょうか。

障害のない人も、できないことを
誰かに助けてもらいながら生きてい
ます。障害のある人も、できること
はたくさんあります。

障害のあるなしに関係なく、困っ
ている人がいたら手を差し伸べる、
共に助け合いながら生きていく「共
生社会」を安城市も目指しています。
この機会に、障害や障害のある人
への関心を深め、「共生社会」につ
いて考えてみましょう。